

[様式2 (汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

御提案書	
技術分野	2, 3 他
御提案件名	イズマリンによる汚染水中の放射性物質の減殺
御提案者	秀物理学研究所
<p>1. 技術等の概要 (特徴、仕様、性能、保有者など)</p> <p>特殊処理をしたイズマリンに含まれる SiO<sub>2</sub>, Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, Na<sub>2</sub>O 等 20 余種のナノ粒子は、4~8 面体の配位幾何構造を有し、その配合率により、化学的分解機能と波動共鳴反応から、正・反ニュートリノを効果的に呼び込めるような素粒子の波動干渉を起こしやすくするようにと理論的な解析を行い、それに基づいて配合計算を実施し、イズマリン生成時に配合したものです。</p> <p>素粒子ニュートリノは、現在の技術レベルではなかなか捕捉が出来ず、その発生量・存在量・増減量等の測定が不可能であるが、下記試験時のようにイズマリンを投与し短時間で放射能濃度がこれだけ減少したのは、投与したイズマリンによって波動干渉場が形成され、大量の正・反ニュートリノが効果的に一度に呼び込まれていた結果ではなかろうかと考えられる。大量の正・反ニュートリノに呼び込まれ、急速にその存在量が増加すれば、弱い相互作用しか反応しないニュートリノでも放射性物質が短時間でβ崩壊を起こし、他の原子番号の同位体に推移したと考えられる。</p> <p>ニュートリノがウイークボソンの媒介で作用したのはその代表格であるβ崩壊が起こり、中性子が電子と反電子を放出させ、一方反ニュートリノの作用でβ+崩壊が起こり、陽子が陽電子を放出させ放射性物質の原子番号が1つ違う番号に推移し、結果として非放射性物質に変換する技術。</p>	
<p>2. 備考 (以下の点など、可能な範囲で御記入いただけますようお願いいたします)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開発・実用化の状況 (国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む)</li> </ul> <p>汚染土試験では、2時間で30万ベクレル、1ヶ月で更に20万ベクレル、計50万ベクレルの放射性物質を減殺。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開発・実用化に向けた課題・留意点</li> </ul> <p>開発済み。 量産時の工場確保が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他 (特許等を保有している場合の参照情報等)</li> </ul>	